

# 茗溪学園中学校高等学校

## 個人課題研究 全員発表会

教務部長 田代 淳一

「Study Skills MEIKEI Method」プレゼンテーションの巻、第2弾は全員発表会です。

また個人課題研究の話ですが、おつきあいください。

### 個人課題提出

茗溪学園高校2年生が1年生の1月から1年間かけて自分の興味あるテーマを探索し研究し論文にまとめる個人課題研究（創立以来31年間かけて発展継続しています）、今年度の論文締め切りは12月4日（土）午後5時でした。1年前、まず自分の興味の発掘から始め、希望する指導担当者を3～4人回ってアドバイスをもらい、テーマや指導担当を確定させてから進めてきた研究をいよいよ完成させる日です。提出には、清書された本文、1年間の研究計画と指導者の確認印の入った研究計画カード、論文内容を約3700字に要約した要旨原稿データ、発表会用のスライド（パワーポイント）データの4点セットが必要で、清書本文には、当然ながら目次、序章、本章、終章、引用文献一覧・参考文献一覧、謝辞などがきちんと形式を整えて含まれていることが必要です。これらをまず指導担当者がチェックし、確認印をもらえたら次は学年の進路指導部に提出します。ここでも細かいチェックが行われ、受領されて提出終了です。簡単に書きましたが、これが大変！260名以上いる生徒を、ひとりひとり原稿をチェックして下書きをさせ、添削します。私の場合は担当生徒が多いので、11月いっぱいはこの添削にかかり切りになります。ひとりの生徒が50頁書いたとしても、40人で2000頁。書き直しをさせた原稿も見ま

すので、膨大な量の原稿を読むことになります。生徒も教員も締め切りが近づくに従って、だんだん睡眠不足となり、1週間前くらいからは徹夜する生徒もいて、高校2年のフロアはちょうど大学の卒業論文締め切り、大学院の修士論文締め切り前の雰囲気そっくりになります。締め切り当日の放課後（本校は6日制なので土曜日は半日授業です。）は既に指導担当のチェックを受けた生徒が我先に提出ブースの前に並び、下級生は何事かと目をまるくし、高校3年生は1年前を思い出してニヤリとする、そういう日です。

### プレゼンテーション

さて、原稿書きの次は締め切りに提出したパワーポイントを用いてのプレゼンテーションの番です。260人全員発表会のため、18会場を用意し、ひとり当たり発表7分、質疑応答3分という“超ショート”プレゼンテーションになります。それでも1日かかり。各会場にひとりずつ教員が「評価者」として配置されますが、教員も自分の他学年の授業の合間を縫って駆けつけます。評価の観点、大きく分けて Speech、Visual、Delivery の3項目。各項目をA～Cで評価し、Aは3点、Bは2点、Cは1点として9点満点をプレゼンテーションの評価とします。評価者が思わず感動するような卓越したプレゼンテーションには10点が与えられます。各項目の内容を紹介しましょう。

### Speech

Speech「発表内容が明確である」の内容は更に3つの細項目に分かれています。①「Introduction/Overview が明確になっている」、② Conclusion が明確になっている、③ Speech 時間が適切である、です。各細項目を1点～3点で採点し、合計して8～9点がA、6～7点がB、5点以下がCの評価です。①の細項目の要素は「研究動機が明確」「Overview が明確」「Hook ができている」、②の細項目は「この研究でわかったことが明確になっている」、③の細項目は「ほぼ7分で発表できた」です。

